

## まえがき

この本を手にとつてくださったあなたは、タイトルを見て何を感じられたでしょうか？「開き直る」なんて、違和感を覚えた方も多いのではないのでしょうか。特に、あなたが今、子育て真最中のお母さんだったら、なおさら納得がいかないタイトルに見えたかもしれませんね。

子育てで開き直る？

いったいどういふことなの？

さらに、サブタイトルの「○○○」には言葉が書かれていなくて、疑問に思われたのではないのでしょうか。

実は最初は○○○の部分に言葉を入れようと思いましたが、でも、書き進めていくうちに、○○○にはこの本を読んでくださったお母さんご自身に決めて入れていただきたいという気持ちが大きくなってきました。なぜかというところ、この本を書いた目的は、お母さんが固定観念にとらわれず、正直に自分の

心の感じるままにお子さんと向き合うことができるようになるきっかけをつくることだからです。

そして、子育てで何かを我慢していたり、自分の気持ちを抑えたりしていて、どこか窮屈な思いをしているお母さんが、もつと楽しく子どもの成長を見守り、何よりもご自身の心が楽になるようにとの願いを込めて書いたからです。

ですから、○○○には、この本を読み終えたときに心に浮かんだ言葉を自由に入れてみてください。それがきつと、あなたにとつての正解なのです。

また、本書は発達障がいの子どもの特性などについて触れていますが、「発達障がい」という言葉はあえて使わず、「○○が苦手なタイプ」という表現を使っている部分もあります。これは、どこまでが標準で、どこから発達障がいの域かなどはつきりとした線引きはできないことや、診断を受けていないものの「なんだか気になるうちの子」を育てていらっしやるお母さんたちにもぜひ読んでいただきたいからです。

この本を読み終えたときに、本当は自分が何を感じていたのか、本音はなんだったかに気づいてもら

えると嬉しいです。そして、タイトルの「○○○○」に入れた言葉が、あなたとお子さんをつなぐ愛情あふれる言葉になっていることを願っています。

斎藤けいこ

「開き直る」とは、  
「こうあるべき」とか「するべき」という  
固定観念から離れることです。

## 「学校（幼稚園）に行きたくない」

本章に入る前に一つ話題を紹介します。

私は約十四年間、発達障がい（発達凸凹）やグレーゾーンの子どもたちの学習指導や社会性を養う訓練をする教室を開いていました。そしてその間、ご家族（特にお母さん）からの悩みを聞いたり相談を受けたりして、多くの親御さんと話をしてきました。

その中で受けた悩みや相談のいくつかを対話方式で紹介しようと思います。

母「運動会の練習が始まって、最近学校に行くのが嫌みたいです。集団行動が苦手なので無理しているかなと思います、先日一日学校を休ませたんです。

でもそれ以降ずっと登校をしづるようになって……」

私「学校お休みできたのですね」

母「数日だけ休ませるつもりだったのに、このままずっと行けなくなってしまうたらどうしましょう」

私「お母さんとしては不安になりますよね」

母「このままずっと行けなくなったケースってありますか？」

私「何かがきっかけとなって、その後行けなくあることはあります。でももう少し様子を見て休ませてあげてもよいと思いますよ」

母「どのくらいの期間ですか？」

私「本人が気のすむまで」

母「えっ？ このままずっと行かないと言っても？」

こつという会話、ときどきありました。

お母さんの頭の中には「学校は行くべき」とか「不登校はよくない」という固定観念があつて、それから子どもが外れないよう一生懸命に「あるべき方向」へ導こうとがんばつてしまふんですね。

それから、いわゆる軽度の発達障がい（発達凸凹）の子どもは、本人の困り感が周囲からわかりにくいため、担任の先生もその子の状態に気づかないケースも多く、結果的に親子で孤立してしまうこともあります。

でも、子どもを信頼してあげましょう。このままずっと学校へ行かなくなつて、進学もできなくなつて、社会になじめなくて就職もできなくて……なんて、妄想ですから。そんな気がするだけです。

お子さんには、

「学校に行けないことがあつてもいい」

「行きたい気持ちになるまで休んでいいよ」



ということを、勇気を持つて伝えてあげましょう。

これは幼稚園、小学校、中学校・高校すべてに言えることです。

「このままずっと行けなくなってしまうたら……」

という考えを握り締めず、思い切つて手放してみましよう！

「子どもが学校（幼稚園）に行かなくてもいいや」と開き直つてしまいましよう。

あくまでもよい意味で開き直るのです。投げやりになるのとは違います。

あなたが抱えている「しなければならぬ」「するべき」と思っていることからくる不安から、いったん目を離すのです。

大丈夫です。あなたが考えているよくないことは気のせいですから。